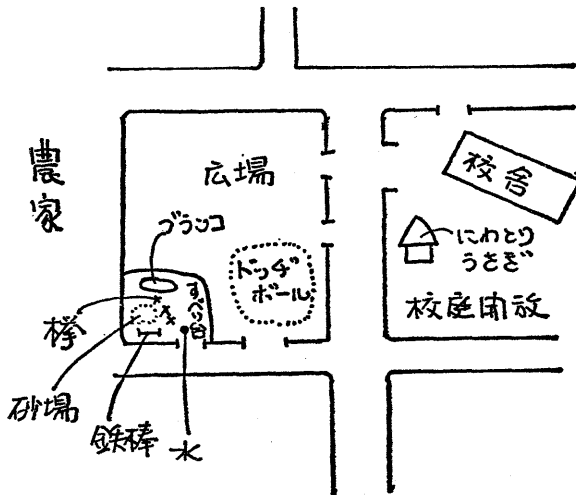


# 「ある午後の子ども達」

樺が少しずつ色づきはじめたある秋の日の午後、娘と公園へ行き  
 ました。家から一才一〇ヶ月の子どもの足で十分のこの小さい公園  
 は、水も充分に使え、大きな樺が三本あり、春は芽ぶき、夏は木陰  
 を、秋は落葉を、冬は空にむかって伸びる凜とした姿を見せてくれ  
 周囲も農家や、その土地で、木々が多く、四季をそれぞれに美しく、  
 特に、真夏の炎天下でも、樺と水のお陰で、我子達は毎日三時間位、  
 泥ンコになって遊べる公園です。木はあっても、子ども達の遊ぶ砂  
 場や、すべり台、ブランコが木陰になる公園は、それに加えて水が  
 使える公園というのには他にはなく、有難く思います。と同時に、公  
 園を造る際、木、一本を植えるのももっと実際の子ども達の遊びを研  
 究して、植えて欲しいと願わずにはいられません。



向山陽子

さて、前置きが長くなりましたが、午後の公園には小學生達が遊びにきます。図のように、広場や、校庭もあるのに、不思議とこの小さな公園がよいようです。それにしても、遊んでいる子は少く、ブランコに五人、すべり台に二人のグループが二組。

この秋の好日の放課後、広場や校庭はガランとして、隅の公園にわずか九人しか遊んでいないなんて、子ども達はどこへ消えたのか、ちょっととしたミステリーではありませんか？

ブランコでは、小学一年生位の男児五名が陣とりと、大きく揺らす競争を組みあわせたような遊びで、おもしろそう。次々と遊びが変化発展していき、大声をかけあって夢中で遊んでいます。

すべり台では、小学四―五年生位でしょうか。女子の二人組がすべり台の上で、男子の二人組が下で、手さげ袋（塾の鞆でしようか）を地面において、それぞれにアイスクリームをなめながら、ちまちま、ヒソヒソと、何やら話しています。

そこへ、二十数名の学童保育の子ども達が隣の広場で男女学年混じったのドッジボールをはじめました。体の大きな上級生らしい男子がリーダーぶりを発揮して、小さい子や、弱い子が線を踏んだりするのは見て見ぬふりをし、力のある子やファイト満々の子には対等に臨み、なかなか活気のある好ゲームとなりました。皆、楽しそうで、見てもさわやかです。

娘はドッジボールの勢いにのまれたのか、遊び出さず、私の膝の上のぼってきて、母子での観戦となりました。

私は思いました。

地域での子ども集団、子どもの遊びが少なくなっていることは、考えていたよりもずっと深刻。この小学校の先生が、「この学校の子達は放課後もよく遊んでいます。」とおっしゃっていたが、学童保育の子ども達以外で遊んでいる子は僅かではないか。

学校でも、朝や、長い休み時間には「今日は外遊びで

す。全員、窓をあけて外に出ましよう。」などと放送が入るのでびっくりします。

遊び場所まで決められているのです。外に出たくない子もいるだろうに。二十数年も昔、机の棧に足をかけ、両足の間から相手にボールを投げ渡す「天下おとし」は、校庭でのそれよりも数倍も楽しかったのに。校庭での皆の遊びを見おろしながら、明るい窓辺で、リリアンを編んだり、トランプで遊んだのも良い思い出なのに。そう、二三日前、校舎の裏で遊んでいた子は他の子に注意されて移動していました。人気の少ない裏庭は、魅力なのに。

さっきの先生が、「休み時間にはできるだけ校庭で、子どもに任せて遊ばせています。」ともおっしゃっていたが、本当にこの言葉どおりで、子ども達は時間はもちろんのこと、空間も決められて、遊ばされているので、子どもに任せられていたのは、許された時間と空間と遊具で何をして遊ぶかという事位でしょう。遊びの内容にもきつときまりがあるのでしょう。走り回ったり、ボー

ルを相手に投げる遊びは校庭では見られません。「健康と安全」という先生方の意図もわからないではありません。でも、これでは、本来もっと自由であるべき遊びからは程遠く、子ども達が放課後や、休日の校庭開放を利用しない気持ちがあわかってきます。学校には「健康と安全」という名の「管理」のにおいがして、子ども達にとって本当に遊ぶ場所には価しないのではないのでしょうか。校庭開放を利用するのは、母親と乳幼児、監督さんに率いられた、サッカーや野球のチーム位です。まさに「健康と安全」の人達で苦笑せずにはおれません。

私はさらに思いました。誰かがどこかで、「働く母親や、保育園での子ども達は集団の中で力を貯え、育ちあうが、地域の母親と子ども達には育ちあう場が少く、力不足である。」と書いていました。

学校での遊びの現状、公園での地域の子ども達の遊びの貧困を見る限りでは、本当にそのとおりです。一児の母親である私は、学童保育の子らのドッジボールの楽しさを見て、「地域での現状がこうならば、娘は学童保育

に入れて、私も働きに出た方が集団の中で育ちあい力がつくのではないかしら。」と考えはじめていました。

と、そんな時です。

学校から、笛を手にした女性が小走りにやってきました。学童保育の先生でしょう。

「ピーッ」と笛が鳴り「反則！」とその先生は叫びました。ボールをとった女の子が線を踏んだのです。例のリーダー君はムツとした顔でその先生を見ました。

しばらくして「ピーッ」あたったボールはバウンドボールだと思い、とって投げようとした子を指さして、その先生は大きな声で「アウト!!」例のリーダー君が「バウンド、バウンド」と叫びました。と、すかさず「ピーッ アウト!! 君(あたった子)、出なさい。」リーダー君はその子にかわって抗議にいきました。が、とりあってももらえません。

こんなことが三〇四度、おこりました。ゲームの様子が変わってきました。子ども達を中心に见えていたゲームが、この先生中心に回りはじめたのです。リーダー君

は、抗議してもききいれてもらえず黙りはじめました。不満を体一杯にみなぎらせて、さっきまでの寛容さはなくなり、相手チームの違反を見逃がさず、言いたるようになりました。大きく見えていたリーダー君は、この先生の影に隠れてしまいました。今までは、二チームに分かれていても、「すごい」「やるーっ。」などの声がかい、皆で一つになってゲームを楽しんでいたのに、まさに、敵を破ることが目的になってきました。

先生って一体何ですか？ 審判ですか？

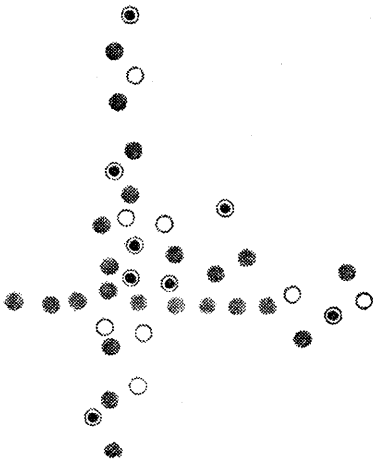
この先生の来ない時の方が、ずっと寛容な楽しいゲームでした。来てからは、確かに「正しい」ゲームになったかもしれないが、ちょっと後味の悪いゲームになりました。全校ドッチボール大会の勝敗をきめるための試合ではないのです。放課後の遊びなのです。

そういうえば最近の子ども達をしている事って、少年サッカー、少年野球、競泳等、勝ちを争う競技型が多くなり、リーダー君を中心としたドッチボールのような遊びが少なく思います。

さらに私をガクンとさせるに決定的だったのは、最初に書いたブランコでおもしろい遊びをしていた五人の男子に、この先生が叫んだのです。「あ、ここで遊んでいたのね、何してるの！ 学童の子はこっちでドッジボールよ。○○君、○○君……」それでも彼らは、互いに顔を見あわせただけで、ブランコを止めませんでした。再び、この先生、「来年はあなたたち一年生が、新しい一年生にドッジボールを教えてあげるんでしょう！ いらっしやい!!」彼らは、びっくりして、広場へ走っていき、

ドッジボールに入りましたが、すぐにあてられて外野へ。外野でもボールは来ず、所在なくつまらなそうので、最後までブランコで遊んでいた時の輝きは見られませんでした。

先生サマ、今の彼らに、半年も先に新しい一年生にドッジボールを教える事など関係ないではありませんか？ 今の彼らにはドッジボールよりも、ブランコでの遊びの方がピタリで、創造的で、全身全神経を集中させて遊んでいたように見うけられました。一才一〇ヶ月



の娘が近づくと、ちゃんと揺れを小さくしてくれましたもの。自分達で遊んでいたブランコでの遊びの方が、彼らの發揮した能力、彼らの得た力は、ドッジボールでのそれよりも大きな事は明らかでした。

「これではだめだ。」と思われました。放課後まで、遊びの内容までこのように管理されているのではだめです。しかし、公園のすべり台で、塾の鞆をもってチンタラとアイスクリームをなめているのも困ったものです。あの先生が来るまでの学童保育の子どもの遊びだけが遊びらしい遊びだなんて、他に遊びが見られないなんて悲しい限りです。

やはり、一番しんどい事だけれど、遅々として歩みは遅いだらうけれど、自分で生き生きと遊べる子どももなくなっていくより、自分の子を他人にまかせず、乳幼児期から地域で一緒になって遊ぶことしかないのだと、当然の結論に至ったのです。さらには、地域のおかあさん仲間と、ああでもない、こうでもないと一緒に試行錯誤していきながら、母子共々に、力を貯え、育ちあう関係

を、大切に少しずつ築き上げていこうと思うのでした。

◇ ◇ ◇

それにしても、どうしてこう管理、管理なのでしょう。落ち葉を集めてたき火をし、焼き芋を楽しんだ公園も「管理上」の名目で、きれいに掃除されました。わからないではありません。でも、落ち葉も、枯れ枝も、木の実もなくなり、娘達の遊びが半減してしまったのも事実です。

産まれる日時まで管理されて、(自分の意志ではなく、他人の(病院)の意志都合で)産まれてきた子が多い。今、管理された環境で、管理された時間と空間で、育つものは何でしょう。

娘達が大切な一日一日を積み重ねて、大きくなっていきます。現状を憂えているだけでは将来、娘に叱られそうです。娘の成長に遅れぬよう、私も地域の母親として力を貯え、育っていこうと思います。